

あしよろ・ハードサポート通信

例年よりもずっと早い雪が降り、足寄町内も11月初旬で冠雪を迎えました。何かとイレギュラーな季節の移り変わりが続き、牛たちの調子も波打っていた印象でしたが、ようやく乳房炎の発生や受胎率の落ち込みなどは一息ついたように感じています。

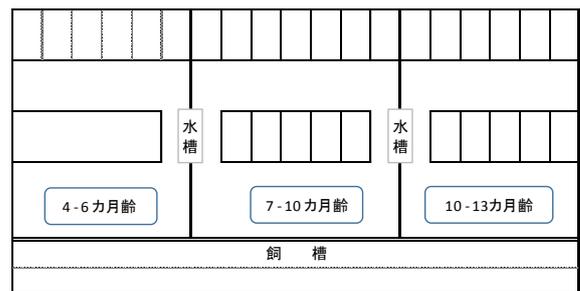
◆ 育成舎あれこれ

今月は、町内の酪農家さんの育成舎を紹介します。3戸とも生後5~6ヶ月齢から受胎時期までの育成牛を収容しており、規模に合った使い勝手の良さそうな施設でした。



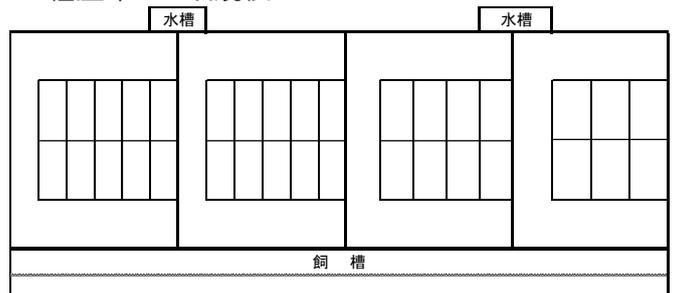
① フリーストール育成舎

経産牛 65 頭規模



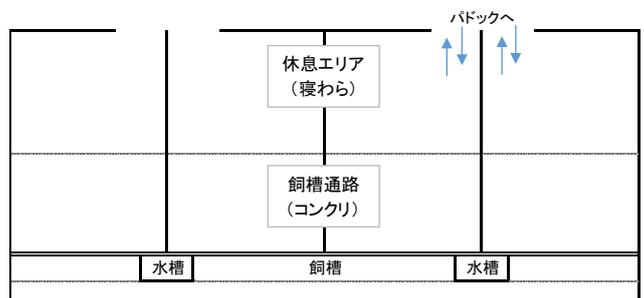
② フリーストール育成舎（頭合わせ）

経産牛 50 頭規模



③ フリーバーン育成舎（パドック付き）

経産牛 50 頭規模



フリーストール育成舎の長所は、敷料のロスが少ない、牛体が汚れづらい、掃除がしやすい、などがあります。短所としては建築コストがかさむ、ストール（牛床）サイズが決まっているのでそのペンに入れられる育成牛の月齢やサイズがある程度制限される、時折ストールに挟まる牛が出る、などでしょうか。



右上は①の牛舎内です。ストールには寝わらがフカフカに敷いてあり、居心地が良さそうです。中段は②の牛舎内で、育成牛が行儀よくストール内で横臥している様子も写っています。



フリーバーン育成舎は建設コストを節約でき、牛の自由度が高く、ペンの汎用性もある反面、敷料の消費量は多く、掃除の頻度や飼養密度によっては牛体が汚れやすい傾向にあります。



下は③の牛舎内での若齢牛ペンで、体格の小さい牛たちがペンから飼槽側へ飛び出て来ないように、飼槽レールにロープで柵が縛りつけてありました。ここ以外のペンは連動スタンションで管理しています。

育成牛管理は群構成（グルーピング）と飼養密度も大きなポイントです。今回の3つの育成舎のように、発育ステージごとに区切ってあり、牛の月齢や体格の差を小さくし、できるだけ負け牛にさせない環境づくりを目指していただけたらと思います。

紹介させていただいた酪農家さん、ありがとうございました。 (久富聡子)

・11月22日13:00よりコーンズAG社、デラバル社、GEAオリオン社による「搾乳ロボットについての説明会」を開催します。JA本別、JA陸別の組合員さんにも案内済みです。町内の皆さんもぜひお集まりください。

・新物1番を給与したが乳量が振るわないという声が聞こえています。長雨や収穫遅れで、例年より1番草の栄養価が低いことが予想されます。まずは粗飼料分析に出すことをお奨めします。栄養管理で気になることがあれば、いつでもご相談ください。